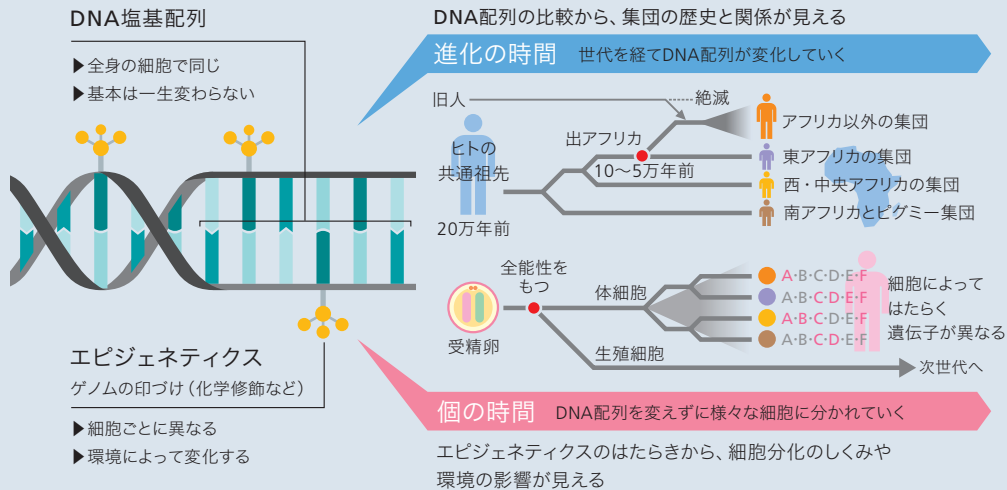


ヒトゲノムから「生きている」を考える

ヒトゲノムプロジェクトの完了後、技術開発により個人のゲノムが読めるようになりました。この膨大なDNA配列の比較から集団の歴史を知ることができます。さらに近年、化石から取り出した古代ゲノムも解析が可能になりました。進化の研究の進展です。一方、個体では同じゲノムをもちながら様々に分化している細胞から、DNA配列を変えずに遺伝子のはたらきを変えるエピジェネティクスが明らかになり、医療にも活用されています。進化と個、生命誌はゲノムから見えるこの二つの時間に注目します。そこから、ヒトという最も身近で興味深い生きものを知る研究です。



Research ?

縄文人の核ゲノムから歴史を読み解く

国立科学博物館
神澤秀明

現在の日本列島に住む人々は、形態や遺伝的性質から大きく3つの集団、アイヌ、本土日本人、琉球に分かれる。この3集団にはどのような成り立ちがあるのだろう。数千年間土に埋もれていた縄文人のDNA配列解析から現代へとつながる歴史が見えてきた。

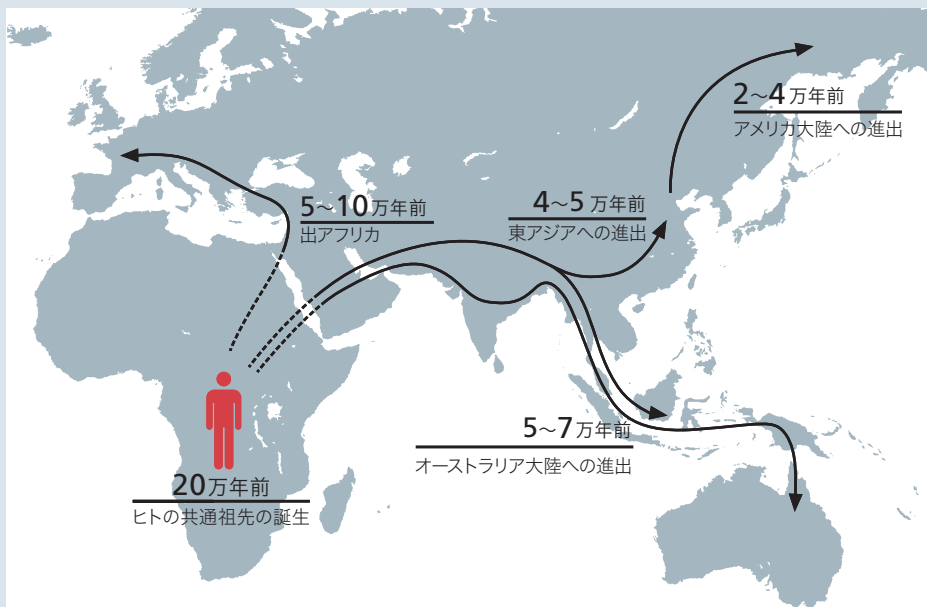


図1：アフリカから世界へヒトの拡散
遺伝学的研究と化石証拠を重ねて、人類の歴史を探る研究が進んでいる。
Scaally and Durbin, *Nature Reviews Genetics* 13, 745-753 (2012)を参照し作成した。